

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	情報処理		
必修選択	選択	(学則表記)	情報処理		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	こども心理学科	1	30
使用教材	①情報基礎演習 保育士・栄養士のためのパソコン操作編 ②教育デジタルトランスフォーメーション 基礎		出版社	①一粒書房 ②一粒書房	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	ビジネス文書の作成、集計表を交えたグラフの作成方法など基本的な操作を学び実践的に適用する力を付ける。				
到達目標	新規からデザイン性のある文書を作成できるようにする。 コンピュータの情報倫理、ネットの脅威とセキュリティ教育を理解し、基礎技術を習熟する。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	堀口 麻美	実務経験	○		
実務内容	IT企業にて、システム開発や運用の担当として6年間勤務した実務経験を基に情報処理の基本的な操作方法を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標、成績評価の基準について説明
2	パソコンとインターネット	・情報基礎演習P2～P30 ・パソコンの基本とメールの利用、ファイルの操作と入力練習
3	第1章 情報を学ぶ意義	・教育デジタルトランスフォーメーション P1～P8 ・デジタルトランスフォーメーション、Society5.0、ギガスクール構想、6G、社会生活とコンピュータ
4	Office操作 Word編	・情報基礎演習P32～P49 ・Wordの基本操作
5	第2章 コンピュータの基礎	・教育デジタルトランスフォーメーション P10～P26 ・ハードウェアとソフトウェア、ファイル管理、コンピュータとは
6	Office操作 Word編	・情報基礎演習P50～P67 ・おたよりを作成しよう
7	第3章 インターネットの利用	・教育デジタルトランスフォーメーション P28～P36 ・インターネットについて

8	Office操作 Word編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報基礎演習P68～P89</li> <li>・掲示用ポスターを作成しよう</li> </ul>
9	第3章 インターネットの利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育デジタルトランスフォーメーション P37～P48</li> <li>・情報検索について</li> </ul>
10	Office操作 Word編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報基礎演習P90～P105</li> <li>・レポートを作成しよう</li> </ul>
11	第4章 コミュニケーションと情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育デジタルトランスフォーメーション P50～P60</li> <li>・メールの形式、宛先（TO・CC・BCC）、署名の形式、メールアドレスとメールの送受信</li> </ul>
12	Office操作 Word編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報基礎演習P106～P124</li> <li>・知っていると便利な機能</li> </ul>
13	第4章 コミュニケーションと情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育デジタルトランスフォーメーション P61～P77</li> <li>・文書作成の基本とルール、フォント、資料の収集・参考文献と引用文献</li> </ul>
14	Office操作 Excel編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報基礎演習P126～P147</li> <li>・Excelの基本操作</li> </ul>
15	第4章 コミュニケーションと情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育デジタルトランスフォーメーション P78～P80</li> <li>・プレゼンテーションとは、準備も含めた全体の流れ</li> </ul>
16	Office操作 Excel編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報基礎演習P148～P161</li> <li>・簡単な関数を使ってみよう</li> </ul>
17	第4章 コミュニケーションと情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育デジタルトランスフォーメーション P81～P88</li> <li>・プレゼンテーションの企画、PREP法</li> </ul>
18	Office操作 Excel編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報基礎演習P162～P170</li> <li>・割合を計算するテクニック</li> </ul>
19	第4章 コミュニケーションと情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育デジタルトランスフォーメーション P89～P101</li> <li>・資料作成の基本、発表技法（話し方）・（態度）</li> </ul>
20	Office操作 Excel編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報基礎演習P171～P184</li> <li>・知っていると便利な機能</li> </ul>
21	第4章 コミュニケーションと情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育デジタルトランスフォーメーション P102～P108</li> <li>・非言語コミュニケーション、リハーサル・質疑応答への対応、次回の為の振り返り</li> </ul>
22	Office操作 PowerPoint編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報基礎演習P186～P201</li> <li>・PowerPointの基本操作</li> </ul>
23	第5章 セキュリティを考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育デジタルトランスフォーメーション P110～115</li> <li>・情報セキュリティ・ポリシー、ウィルスとは、ウィルス対策</li> </ul>
24	Office操作 PowerPoint編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報基礎演習P202～P210</li> <li>・知っていると便利な機能①</li> </ul>
25	第5章 セキュリティを考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育デジタルトランスフォーメーション P116～120</li> <li>・不審メール、ウィルス感染時の対処、インターネットの詐欺、インターネットの詐欺から身を守る</li> </ul>
26	Office操作 PowerPoint編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報基礎演習P211～P220</li> <li>・知っていると便利な機能②</li> </ul>
27	第6章 さまざまなインターネットサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育デジタルトランスフォーメーション P122～128</li> <li>・クラウドサービス、オンラインツール、SNSの利用、クラウドサービスでの情報共有、YouTubeでの動画投稿</li> </ul>
28	Office操作 PowerPoint編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報基礎演習P221～227</li> <li>・スライドでポスター作成</li> </ul>
29	第7章 社会人として知るべき法律等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育デジタルトランスフォーメーション P130～145</li> <li>・個人情報保護法、著作権、守秘義務、情報漏えい、情報化を進めるために</li> </ul>
30	まとめ	振り返りをしてまとめを行う

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	未来デザインプログラムⅠ			
必修選択	必修	(学則表記)	未来デザインプログラムⅠ			
開講					単位数	時間数
年次	1年	学科	こども心理学科	2	30	
使用教材	7つの習慣Jテキスト 夢のスケッチブック (WEBアプリ)		出版社	FCEエデュケーション		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分に身をつける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。</li> <li>・7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体現することができる。</li> </ul>				
評価基準	テスト：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席が総時間数の3分の2以上ある者</li> <li>・成績評価が2以上の者</li> </ul>				
関連資格	なし				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	井上 愛里	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	「未来デザインプログラム」とは何か学ぶ 夢のスケッチブックの使い方を学ぶ
2	SANKOワークコンピテンス	SANKOワークコンピテンスの理解を深める
3	7つの習慣とは？	7つの習慣とは何か学ぶ 夢のスケッチブックを使って日誌を書くことの意味を学ぶ
4	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの意味について学ぶ
5	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解する 自分自身との約束を守る大切さを学ぶ
6	刺激と反応	「刺激と反応」の考え方を理解する 主体的に判断・行動していくことの大切さを学ぶ
7	言葉～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ

8	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にすることの大切さを学ぶ
9	選んだ道と選ばなかった道	自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ
10	人生のビジョン	入学時に考えた「卒業後の姿」をより具体的に考え、イメージする
11	大切なこととは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」には、夢の実現や目標達成に直接関係することだけではなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ 自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第2領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的成功の振り返り	前期授業内容（私的成功）の振り返りを行う
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ
16	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
17	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
18	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
19	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
20	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、「理解してから理解される」という考え方があるということ学ぶ
21	相乗効果を発揮する	人と違いがあることに価値があることを学ぶ
22	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
23	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続であり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ
24	人生ビジョンを見直そう	将来のなりたい姿を描き、同時にその生活の実現にはお金が必要であることを学ぶ 現実的なライフプランの大切さを理解する
25	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高める
26	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
27	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
28	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的成功が公的成功に先立つことを理解する
29	未来デザインプログラムの振り返り	7つの習慣など、未来デザインプログラムで学んだことを復習（知識確認）する
30	2年生に向けて	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保育原理		
必修選択	選択	(学則表記)	保育原理		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	こども心理学科	2	30
使用教材	①『生活事例からはじめる保育原理』5版 神蔵幸子・宮川萬寿美・中川秋美 ②平成29年告示版 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 原本		出版社	①青踏社 ②チャイルド本社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	保育の意義及び目的について理解する。保育に関する法令に基づく制度について学び、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領に則った保育の基本・目標と方法について理解する。また保育の思想と歴史の変遷を学び、保育の現状と課題について考える。				
到達目標	①保育の意義及び目的について理解する。 ②保育に関する法令及び制度を理解する。 ③保育所保育指針における保育の基本について理解する。 ④保育の思想と歴史の変遷について理解する。 ⑤保育の現状と課題について理解する。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	小田原短期大学関連科目				
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	滝沢 和香奈	実務経験	○		
実務内容	保育所・未就園児親子支援・プレーパークにて、保育士として4年間勤務をした実務経験を基に、保育の意義および目的を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	保育を学ぶということ	「保育」とは
2	保育を学ぶということ	保育者に求められていること
3	子ども理解	子どもを理解するとは
4	子ども観・保育観	外国の保育思想に学ぶ
5	子ども観・保育観	日本の保育思想に学ぶ
6	これまでのまとめ	まとめ

7	保育の理念を支える法規	保育の理念を支える法規
8	幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能	幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能
9	保育の目標と内容	保育の目標と内容
10	保育の目標と内容 保育の方法	「領域」の考え方
11	保育の目標と内容	幼稚園教育要領における保育内容
12	これまでのまとめ	まとめ
13	保育の計画と評価	保育の計画と評価
14	子どもの育ち・学びの連続性	幼児教育（就学前教育）と小学校教育（就学後）の学びそれぞれの目的と学び方の違い
15	日本の保育の現状と課題	子どもを取り巻く日本の様々な現状や課題
16	海外の保育事情	海外の保育に関する考え方を学び、様々な保育実践について学ぶ
17	保育者のあり方	専門家としての保育者のあり方について学ぶ
18	これまでのまとめ	各回の内容振り返り、理解度確認
19	これまでのまとめ	総復習
20	保育を学ぶということ	「保育」とは 保育者に求められていること
21	子ども理解 子ども観・保育観	子どもを理解するとは 外国・日本の保育思想に学ぶ
22	保育の理念を支える法規 幼稚園・保育所・認定こども園の 制度と機能	保育の理念を支える法規 幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能
23	保育の目標と内容 保育の方法	保育の目標と内容 「領域」の考え方
24	これまでのまとめ	まとめ
25	保育の計画と評価 子どもの育ち・学びの連続性	保育の計画と評価 幼児教育（就学前教育）と小学校教育（就学後）の学びそれぞれの目的と学び方の違い
26	保育の計画と評価 子どもの育ち・学びの連続性	保育の計画と評価 幼児教育（就学前教育）と小学校教育（就学後）の学びそれぞれの目的と学び方の違い
27	日本の保育の現状と課題 海外の保育事情	子どもを取り巻く日本の様々な現状や課題 海外の保育に関する考え方を学び、様々な保育実践について学ぶ
28	子育て支援	子育ての支援内容、支援対策について学ぶ
29	保育者のあり方	専門家としての保育者のあり方について学ぶ
30	年間総復習	総まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	教育原理		
必修選択	選択	(学則表記)	教育原理		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	こども心理学科	2	30
使用教材	『人物で学ぶ教育原理 第13刷』中村弘行著		出版社	三恵社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	教育の理念、思想、歴史などの検討を通して教育学の基礎的な知識について体系的に学ぶとともに、教育にかかわる今日的な課題についても原理的に考察する。教えることや学ぶことはどのような営みなのか、先人の教育観や子ども観を学び、現代的に考えることができるようにすることを目指す。				
到達目標	①教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 ②教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 ③教育の制度について理解する。 ④教育実践の様々な取り組みについて理解する。 ⑤生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	小田原短期大学関連科目				
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	谷津田 ゆかり	実務経験	○		
実務内容	私立幼稚園にて教諭として4年間勤務、私立保育園にて保育士として3年間勤務、公立学童クラブにて指導員として8年間勤務した実務経験を基に、教育学の基礎的知識について体系的に教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	教育の意義	教育の目的や意義、保育と教育の関係・養護と教育（5領域）
2	西洋の教育思想	コメニウス、ロック、ルソーの啓蒙主義の教育思想
3	西洋の教育思想	フレーベル、デューイ、モンテッソーリの経験主義の教育思想
4	日本の教育思想 (江戸～明治)	貝原益軒、佐藤信淵、福沢諭吉の思想
5	これまでのまとめ	まとめ
6	日本の教育思想 (江戸～昭和)	森有礼、倉橋惣三、城戸幡太郎の思想
7	外国教育史	近代までの子ども観・教育観、ソクラテスの教育思想

8	外国教育史	大学の設置・教会による教育、近代公教育制度の成立
9	日本教育史	近世以降の地域における教育、学制以降の教育
10	理想の教育実践	学校制度成立以降の教育実践
11	これまでのまとめ	総復習
12	教育行政・制度	教育委員会・生涯学習・学校選択制について学ぶ
13	これまでのまとめ	まとめ
14	教育の意義	養護と教育（5領域）
15	西洋の教育思想	コメニウス、ロックの啓蒙主義の教育思想
16	西洋の教育思想	ルソー、フレーベルの経験主義の教育思想
17	西洋の教育思想	デューイ、モンテッソーリの経験主義の教育思想
18	これまでのまとめ	まとめ
19	日本の教育思想 （江戸～明治）	貝原益軒、佐藤信淵の思想
20	日本の教育思想 （江戸～明治）	福沢諭吉、森有礼の思想
21	日本の教育思想 （江戸～明治）	倉橋惣三、城戸幡太郎の思想
22	外国教育史	近代までの子ども観・教育観、ソクラテスの教育思想
23	外国教育史	大学の設置・教会による教育、近代公教育制度の成立
24	日本教育史	近世以降の地域における教育
25	日本教育史	学制以降の教育
26	理想の教育実践	学校制度成立以降の教育実践
27	理想の教育実践	学校制度成立以降の教育実践
28	理想の教育実践	学校制度成立以降の教育実践
29	これまでのまとめ	まとめ
30	年間総復習	総復習

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	社会福祉		
必修選択	選択	(学則表記)	社会福祉		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	こども心理学科	2	30
使用教材	『生活事例からはじめる 新版社会福祉』(改訂版)		出版社	青踏社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷、社会福祉における子ども家庭福祉の視点を理解する。社会福祉の制度や実施体制を理解するとともに、相談援助について学ぶとともに、利用者の保護に関わる仕組みについて理解を深める。さらに社会福祉の動向と課題を考察する。				
到達目標	①現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 ②社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 ③社会福祉における相談援助について理解する。 ④社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 ⑤社会福祉の動向と課題について理解する。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	小田原短期大学関連科目				
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	畠 海渡	実務経験		○	
実務内容	保育士として、児童養護施設・児童相談所・保育所・幼稚園にて5年間、現在は認定こども園園長補佐と障害児施設施設長として勤務した実務経験を基に、現代社会の諸課題を踏まえながら、福祉のニーズや制度のあり方について教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	年間予定 諸注意
2	社会福祉の歴史の変遷①	社会福祉の取り組みは貧困問題から、海外の貧困問題の歴史的取り組みやその原因について、わが国の篤志家について理解する。
3	社会福祉の歴史の変遷②	防貧対策としての国による福祉の支援方法について、社会資源とは、地域の住民同士の助け合いの歴史的取り組みと現代の取り組みを理解する。
4	社会福祉の理念と課題①	社会福祉とは何か、憲法第25条生存権、ノーマライゼーション・インクルージョンの理念について
5	社会福祉の理念と課題②	ニーズとは何か、ニーズの時代的变化、社会参加について理解する。
6	社会福祉の理念と課題③	自立と依存のバランス、社会福祉における平等な支援のあり方について理解する。

7	子ども家庭支援と社会福祉①	家族の暮らす社会を理解し、社会環境に着目する。社会福祉の支援の視点を理解する。
8	子ども家庭支援と社会福祉②	保育の社会化としての現代の地域子育て支援事業の種類を理解する。合計特殊出生率の変遷を理解する。
9	子ども家庭支援と社会福祉③	子どもの人権擁護として『子どもの権利に関する条約』の理念や『国連子どもの権利委員会』を理解する。
10	子ども家庭支援と社会福祉④	児童虐待防止法、オンブズパーソン、施設入所している子どもの権利擁護について、子どもの権利ノートについて理解する。
11	社会福祉にかかわる法律	日本国憲法第25条生存権、社会福祉の土台となる社会福祉法、福祉六法について理解する。
12	福祉の政策主体	国の組織、地方公共団体の組織と福祉、社会福祉の財源、地域福祉計画、児童福祉施設の設定運営基準、条約等について理解する。
13	福祉を支える法律	健康やケアに関する法律、障害者に関する法律、暴力からの保護に関する法律、支援者に関する法律について理解する。
14	社会福祉施設	社会福祉法による第1種・第2種社会福祉事業について理解する。
15	復習とまとめ	これまでのまとめ、復習
16	社会保険制度①	介護保険と医療保険について理解する。
17	社会保険制度②	年金保険・雇用保険・労災保険について理解する。
18	社会福祉の専門職	福祉の実施主体・地域住民による活動・専門職との連携を理解する。
19	社会福祉における利用者の保護に関する仕組み	第三者評価事業・施設内での苦情解決の仕組み・その他権利を擁護する仕組みを理解する。
20	社会福祉における相談援助①	相談援助の理論・意義・機能・対象を理解する。
21	社会福祉における相談援助②	事例を通して個人や家族に対しての相談援助の過程を理解する。
22	社会福祉における相談援助③	事例を通してグループや地域への相談援助の過程を理解する。
23	社会福祉の動向と課題①	少子超高齢社会の進行、地域の変化について理解する。
24	社会福祉の動向と課題②	子ども子育て支援新制度を中心とした少子化対策の展開について理解する。
25	その他の施策①	健やか親子21、少子化対策プラスワン、少子化社会対策基本法、次世代育成支援対策推進法などについて理解する。
26	その他の施策②	次世代育成対策推進法における行動計画策定の仕組み、男女共同参画社会と少子化対策としての育児介護休業法、社会手当てについて理解する。
27	共生社会の実現と障害者施策①	高齢社会を支える施策として介護保険法・老人福祉法を理解する。
28	共生社会の実現と障害者施策②	障害者を支える施策として障害者基本法・障害者総合支援法・障害者の権利条約・障害者差別解消法の合理的配慮を理解する。
29	他職種との連携とネットワーク	福祉の実施主体・地域住民による活動・専門職との連携を理解する。
30	復習とまとめ	これまでのまとめ、復習

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保育者論		
必修選択	選択	(学則表記)	保育者論		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	こども心理学科	2	30
使用教材	『保育者論－主体性のある保育者を目指して』 野津直樹・宮川萬寿美編著		出版社	萌文書林	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“保育者とは何か”を命題とし、学生一人一人が目指していくべき保育者像を追究し理解する。</li> <li>・また実際に保育現場で保育者が働いている様子から伺える様々な葛藤、それを通しての成長の過程を知る。</li> </ul>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①保育者の役割と倫理について理解する。</li> <li>②保育士の制度的な位置づけを理解する。</li> <li>③保育士の専門性について考察し、理解する。</li> <li>④保育者の連携・協働について理解する。</li> <li>⑤保育者の資質向上とキャリア形成について理解し説明する。</li> </ul>				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	小田原短期大学関連科目				
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山本 真理子	実務経験	○		
実務内容	私立幼稚園にて担任教諭として5年間勤務、NPO法人にて保育士として6年間勤務、私立幼稚園にて子育て支援部署担当教諭として18年間(うち8年間は担当部署長)勤務をした実務経験を基に、保育士の役割と倫理について教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	保育者とは	現在持っている保育者のイメージについて 保育者の法的根拠について学ぶ
2	幼稚園教諭とは	幼稚園教諭の役割を学ぶ
3	保育士とは	保育士の役割を学ぶ
4	保育教諭および施設で働く保育者とは	保育教諭・施設で働く保育者の役割を学ぶ
5	保育者に求められる倫理	子どもの最善の利益とは何かについて学ぶ
6	これまでのまとめ	今までの復習を行う
7	保育者の制度的位置付け	保育者の法的な定義について学ぶ

8	保育者の資質・能力	保育者の専門性を学ぶ
9	養護及び教育の一体的展開	養護と教育を一体的に行うことについて学ぶ
10	保育の質の向上	保育の質の向上について学ぶ
11	これまでのまとめ	今までの復習を行う
12	計画に基づく保育の実践と省察・評価	PDCAサイクルについて学ぶ
13	園内の保育者チーム及び家庭との連携	他の教職員や家庭との連携について学ぶ
14	専門機関や地域との連携	様々な専門機関等について学ぶ
15	保育者の葛藤と成長	保育者として葛藤するということ学ぶ
16	保育の現代的な問題①	保育者としての心の持ち様、必要なスキルについて学ぶ
17	保育を目指すあなたへ	これまでの保育者論の学びを振りかえる
18	これまでのまとめ	各回の内容振り返り、理解度確認
19	これまでのまとめ	総復習
20	保育者の専門性①	これまでの保育者論の学びを振り返る
21	保育者の専門性②	これまでの保育者論の学びを振り返る
22	これまでのまとめ	まとめ
23	実践演習①	豊かな保育実践に繋げるための保育の引き出しを増やす
24	実践演習②	豊かな保育実践に繋げるための保育の引き出しを増やす
25	実践のまとめ①	豊かな保育実践に繋げるための保育の引き出しをまとめる
26	実践のまとめ②	保育の引き出しを描く
27	保育者論のまとめ①	目指す保育者像を描く①
28	保育者論のまとめ②	目指す保育者像を描く②
29	保育者論のまとめ③	目指す保育者像のレポート発表
30	年間総まとめ	まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保育の心理学		
必修選択	必修	(学則表記)	保育の心理学		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	こども心理学科	2	30
使用教材	実践につながる新しい保育の心理学		出版社	ミネルヴァ書房	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場で関わる年齢期に応じた子どもの心理と身体のあり方、およびその成長・発達について学んでいく				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深めることができる</li> <li>・乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解できる</li> </ul>				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者				
関連資格	小田原短期大学関連科目				
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	井澤 正代	実務経験	○		
実務内容	医療機関の心療内科にてカウンセラーとして10年間勤務、公立小学校にて教育相談員として5年間勤務した実務経験を基に、子どもの心理と身体のあり方、発達について教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について 保育の心理学とは
2	子どもの発達を理解することの意義	発達心理学とは 現代社会が抱える子どもの問題
3	子どもの発達と環境	各発達理論・説について
4	子ども観・保育観と発達理論からの視点	子ども観と保育観 ポウルビイの理論とハーロウの実験
5	社会的情動	基本的信頼感の形成 愛着理論
6	身体能力と運動機能の発達	発育・発達の原理原則
7	認知の発達	ピアジェの発達理論
8	言語の発達	言語・コミュニケーションの発達

9	アセスメント	障害と各種検査
10	発達段階 ①	0・1・2歳の発達
11	発達段階 ②	3・4・5歳の発達
12	発達段階 ③	学童期の発達
13	発達段階 ④総まとめ ①	青年期の発達
14	発達段階 ⑤	成人期から老年期までの発達
15	総まとめ ①	振り返り 解説
16	乳幼児期の学びに関する理論	学習理論
17	遊びの理論 ①	乳幼児期の学び(遊び)の過程と特性
18	遊びの理論 ②	乳幼児期の学び(遊び)を支える保育
19	子どもの発達と遊びの関係 ①	遊びと生活習慣形成
20	子どもの発達と遊びの関係 ②	幼児教育において育みたい資質・能力の整理
21	学習心理学 ①	行動を身につけるということ ①
22	学習心理学 ②	行動を身につけるということ ②
23	障害のある子どもの保育 ①	サポートの必要な子どもについて ①
24	障害のある子どもの保育 ②	サポートの必要な子どもについて ②
25	障害のある子どもの保育 ③	サポートの必要な子どもについて ③
26	生涯発達を見据えた発達支援	生涯発達とは
27	各発達段階における対応 ①	発達を踏まえた声かけを考える ①
28	各発達段階における対応 ②	発達を踏まえた声かけを考える ②
29	発達を支援するということ	保育者は何のために子ども支援を行うのか
30	総まとめ ②	振り返り 解説

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	健康		
必修選択	選択	(学則表記)	健康		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども心理学科	1	30
使用教材	『健やかな育ちを支える 領域「健康」』		出版社	ミネルヴァ書房	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	1.幼稚園教育要領・保育所保育指針等における領域「健康」の「ねらい」「内容」について理解する。 2.乳幼児の健康の諸問題について子どもたちが自ら学び、考え、問題解決できるよう生きる力を育む指導のあり方について学ぶ。 3.保育活動における健康教育について学ぶ。				
到達目標	1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	小田原短期大学関連科目				
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	喜多野 直子	実務経験	○		
実務内容	病院にて病院栄養士として約2年間勤務、特定保健指導員として約3年間勤務した実務経験を基に、乳幼児の健康について教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・到達目標・評価などについて
2	幼児と健康	幼稚園教育要領等における「健康」のねらいや内容について学ぶ。
3	発育・発達	発育、発達、成長の特徴と違いを理解し説明できるようにする。
4	運動	運動技能の発達過程および運動遊びの意義について理解する。
5	生活習慣	基本的な生活習慣とその意義について学ぶ。

6	食育	生涯を健康に過ごすために必要な食育の基本を理解する。
7	幼児の保健	保育現場の保健に関する知識を学ぶ。
8	保育における安全管理	保育現場の安全管理について学ぶ。
9	現代的課題	領域「健康」に関する現代的課題と保育者の役割について学ぶ。
10	振り返り	各回内容の振り返り、理解度確認
11	領域「健康」のねらいと内容①	幼稚園教育要領にある「健康のねらい・内容・内容の取扱い」について理解する。
12	領域「健康」のねらいと内容②	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にある「健康のねらい及び内容」について理解する。
13	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	幼稚園教育要領にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解する。
14	前期の振り返り	前期内容のまとめ
15	子どもの発育発達①	乳幼児期を通しての心身の発達について理解する。
16	子どもの発育発達②	乳幼児期を通しての運動能力の発達について理解する。
17	子どもの運動①	運動能力調査に見る子どもの心身の変化について理解する
18	子どもの運動②	運動能力を低下させた原因、最近の子どもたちの現状について理解する。
19	子どもの生活習慣①	基本的な生活習慣に関わる子どもの発達について理解する。
20	子どもの生活習慣②	園における基本的な生活習慣を促す援助について学ぶ。
21	子どもの生活習慣③	園における基本的な生活習慣を促す援助について理解をする。
22	子どもの食育①	子どもの食生活の現状について知る。
23	子どもの食育②	子どもの食育について理解する。
24	子どもの保健①	保育における健康管理の重要性を理解する。
25	子どもの保健②	保育における健康管理の方法を理解する。
26	子どもの安全管理①	園内での事故事例を知り、安全教育について理解する。
27	子どもの安全管理②	園内外での事故や災害事例を知り、安全教育について学ぶ。
28	保育の現代的課題	現代社会における園や保育者に求められることについて理解する。
29	後期の振り返り	後期内容のまとめ
30	1年の振り返り	子どもの健康を支える保育者の役割について自身の考えを整理する。

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	人間関係		
必修選択	選択	(学則表記)	人間関係		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	こども心理学科	1	30
使用教材	実践につながる新しい保育内容「人間関係」		出版社	ミネルヴァ書房	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	幼児期の人間関係の発達に関する学びを基に、領域「人間関係」のねらい及び内容への理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。</li> <li>2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。</li> <li>3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。</li> <li>4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。</li> </ol>				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	小田原短期大学関連科目				
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	友澤 美香	実務経験		○	
実務内容	幼稚園で保育助手として2年間勤務、保育園にて保育士として4年間勤務した実務経験を基に、幼児期の人間関係の発達について演習を通して教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・到達目標について
2	第1章 子どもを取り巻く現代社会の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1節 子どもを取り巻く現代的課題と子どもの生活の変化</li> <li>・第2節 新しい時代に求められる教育的効果としての非認知能力</li> <li>・第3節 領域「人間関係」の成り立ちと目指すもの</li> </ul>
3	第2章 領域 「人間関係」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1節 0歳児のねらいと内容における「人間関係」</li> <li>・第2節 領域「人間関係」における1歳以上3歳未満児のねらいと内容</li> <li>・第3節 領域「人間関係」における3歳～5歳のねらいと内容</li> </ul>
4	第3章 0歳児における人間関係と援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1節 0歳児の心身の育ちと人間関係</li> <li>・第2節 人との関わりを育むあそび</li> </ul>
5	第4章 1～2歳児における人間関係と援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1節 1～2歳の心身の育ちと人間関係</li> <li>・第2節 人との関わりを楽しむあそび（保育者による支援）</li> </ul>
6	第5章 3～5歳児における人間関係と援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1節 3～5歳の心身の育ちと人間関係</li> <li>・第2節 人との関わりを育むための子ども理解</li> <li>・第3節 幼児期までに育ってほしい姿と小学校への接続</li> </ul>
7	第6章 人との関わりが難しい子どもへの支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1節 集団生活に困難が伴う子どもとは</li> <li>・第2節 インクルーシブな保育に向けて</li> </ul>

8	第7章 子育て支援における人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1節 子育て支援とは</li> <li>・第2節 園における保護者支援の種類と関わり</li> <li>・第3節 子育て支援センターにおける「おもちゃの広場」の実践例</li> </ul>
9	第8章 保育における現代的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1節 ICT技術の発展と幼児期の影響</li> <li>・第2節 外国にルーツを持つ子どもや家族との関わり</li> </ul>
10	振り返り	各回の内容振り返り、理解度確認
11	振り返り	総復習
12	まとめ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを取り巻く現代社会の状況</li> <li>・領域 「人間関係」</li> </ul>
13	まとめ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0歳児における人間関係と援助</li> <li>・1～2歳児における人間関係と援助</li> </ul>
14	まとめ③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3～5歳児における人間関係と援助</li> <li>・人との関わりが難しい子どもへの支援</li> </ul>
15	まとめ④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援における人との関わり</li> <li>・保育における現代的課題</li> </ul>
16	子どもを取り巻く現代社会の状況	ECECの質の向上、主体性について学ぶ①
17	子どもを取り巻く現代社会の状況	ECECの質の向上、主体性について学ぶ②
18	領域 「人間関係」	人と関わる力の基礎を培うには、どのような働きかけが基盤になるか学ぶ①
19	領域 「人間関係」	人と関わる力の基礎を培うには、どのような働きかけが基盤になるか学ぶ②
20	0歳児における人間関係と援助	保育所保育指針から乳児期の「人間関係」について学ぶ①
21	0歳児における人間関係と援助	保育所保育指針から乳児期の「人間関係」について学ぶ②
22	1～2歳児における人間関係と援助	1～2歳の心の発達にみられる「自己主張」にはどのように対応していくとよいか学ぶ①
23	1～2歳児における人間関係と援助	1～2歳の心の発達にみられる「自己主張」にはどのように対応していくとよいか学ぶ②
24	3～5歳児における人間関係と援助	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる子どもの育ちを学ぶ①
25	3～5歳児における人間関係と援助	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる子どもの育ちを学ぶ②
26	人との関わりが難しい子どもへの支援	インクルーシブな保育実践にはどのような視点が必要か学ぶ。
27	子育て支援における人との関わり	地域にどのような子育て支援の形があるか学ぶ。
28	保育における現代的課題	保育や育児に関するスマートフォンのアプリケーションについて学ぶ。
29	まとめ	授業第16回～第28回のまとめ
30	「人間関係」総まとめ	まとめと振り返り

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	環境		
必修選択	選択	(学則表記)	環境		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	こども心理学科	1	30
使用教材	[新版]保育内容「環境」		出版社	大学図書出版	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	領域「環境」における内容を基本として、子どもが環境とかかわる力を培うことができるようなより具体的な指導法とはどういったものかを考える。指導計画を実際に作成し、それを実践する中で子どもへの援助の在り方等を学ぶ。模擬保育を通して実践的に学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。</li> <li>2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。</li> <li>3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。</li> <li>4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。</li> </ol>				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	小田原短期大学関連科目				
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山本 真理子	実務経験	○		
実務内容	私立幼稚園にて担任教諭として5年間勤務、NPO法人にて保育士として6年間勤務、私立幼稚園にて子育て支援部署担当教諭として18年間(うち8年間は担当部署長)勤務をした実務経験を基に、子どもが環境と関わる力を培うために必要な指導方法について教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 領域「環境」とは	領域「環境」について 授業の流れ・到達目標・評価などについて
2	保育における環境	園のあり方、保育における環境の基本的な考え方について 幼稚園教育要領と保育所保育指針・領域「環境」の「ねらい」「内容」について
3	子どもの生活と保育環境	人的環境・物的環境・自然環境・社会環境という環境の区分について あらゆる子どもにとって配慮された環境について
4	物的環境との関わり	物的環境について リスクとハザードについて
5	自然環境との関わり	自然環境（四季、命の移り変わり、虫・小動物等苦手な生き物）について 自然環境を守るという姿勢について
6	子どもを取り巻く社会環境	地域の拠点としての園と地域社会とのつながりについて 地域資源について

7	遊びを通して関わる環境 (数量・図形・文字・標識)	遊びを通して関わる環境として、数量・図形・文字・標識について 数量・図形・文字・標識に関わる遊びについて 生活の中で数量・図形・文字・標識に出会う機会について
8	遊びを通して関わる環境 (科学との出会い)	遊びを通して関わる環境としての科学について 科学と出会えることができる遊びについて 生活の中で科学と出会う機会について
9	遊びを通して関わる環境 (子どもを取り巻く情報メディア)	遊びを通して関わる環境としての情報メディアについて 情報メディアを活用した遊びについて 生活の中で情報メディアの活用について
10	行事を通して関わる環境	四季の変化と暦・年中行事・節句について 地域の行事や国旗について
11	振り返り	総復習
12	領域「環境」を生かす幼稚園教諭・保育士 の役割	領域「環境」を生かす幼稚園教諭や保育士の役割について
13	園の環境構成	乳児・幼児の環境の特性について
14	実践編：飼育・栽培	飼育・栽培の意義と保育者の関わりについて
15	実践編：飼育・栽培	飼育・栽培の事例、実際の方法について
16	実践編：シャボン玉	シャボン玉遊びの際の安全管理と安全な遊び方について
17	実践編：泥団子作り	泥団子作りの魅力について
18	実践編：年間行事	園生活の年間行事について
19		
20	応用編：ICTの活用	子どもを取り巻く情報メディア、テクノロジーと子どもたちをふまえたICTの活用について
21		
22		
23	応用編：環境教育指導資料小学校編	環境教育について 環境教育を例に小学校との接続について
24		
25	指導案作成・実践	飼育栽培の指導案について
26		
27		
28	園生活の年間行事	園生活の年間行事について
29		
30	総まとめ	振り返りと総まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	言葉		
必修選択	選択	(学則表記)	言葉		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども心理学科	1	30
使用教材	保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」		出版社	ミネルヴァ書房	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	保育において育みたい幼児の資質・能力について学ぶとともに、領域「言葉」のねらい及びないようについての理解を深める。また、言葉の発達に即して、言葉遊びや児童文化財を適切に活用する技術を体験的に学び、保育を構想する力を身につける。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。</li> <li>2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。</li> <li>3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。</li> <li>4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。</li> </ol>				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	小田原短期大学関連科目				
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	岡崎 律子	実務経験	○		
実務内容	保育士・特別支援学級支援員として、保育園・病児保育室・小学校にて20年間携勤務した実務経験を基に、幼児の言葉の発達段階を理解し、幼児教育の場で言葉を豊にする方法を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・到達目標・評価などについて説明。 言葉の必要性について考える。
2	人間と言葉	言葉の不思議で奥深い側面について考え、「話し言葉」と「書き言葉」の主な機能について理解する。
3	乳幼児期の言葉の獲得	乳幼児は自ら言葉を獲得する力を持って生まれてくることを知る。乳幼児が言葉と言葉の仕組みをどのようにして見つけているのか、その概略を理解する。
4	言葉の豊かさ	日本語の特徴を理解するとともに、日本語の美しさ、豊かさ、美しさを実感する。
5	言葉遊び	言葉遊びの歴史や保育における位置づけ、発達段階に応じた遊び方を知る。言葉遊びを体験し、楽しさを実感するとともに、活用法について考える。
6	児童文化財①〔おはなし〕	保育における児童文化財活用の意義を理解するとともに、「おはなし」の活用方法を身につける。

7	児童文化財②〔紙芝居〕	日本独特の文化財である紙芝居の歴史と特性を知るとともに、紙芝居の演じ方のポイントを押さえて実演できるようになる。
8	児童文化財③〔絵本とは何か〕	絵本各部の名称や絵本のジャンルを知るとともに、絵と言葉が協力する絵本の特性を理解する。
9	児童文化財④〔絵本と子ども〕	効果的な「絵本の読み聞かせ」方法を身につける。絵本の中に描かれた子どもについて考察する。
10	学びの振り返り	各回の内容振り返り、理解度確認
11	学びの振り返り	総復習
12	言葉の豊かさ	日本語の特徴を理解するとともに、日本語の美しさ、豊かさ、美しさを実感する。
13	実践 言葉遊び	言葉遊び① 言葉を集める遊び、言葉を感じる遊び
14	実践 言葉遊び	言葉遊び② 言葉を発信する遊び
15	総まとめ①	前期の振り返りとまとめ
16	人間と言葉	言葉の不思議で奥深い側面について考え、「話し言葉」と「書き言葉」の主な機能について理解する。
17	言葉遊び	言葉遊びの歴史や保育における位置づけ、発達段階に応じた遊び方を知る。言葉遊びを体験し、楽しさを実感するとともに、活用法について考える。
18	言葉遊び	言葉遊びの歴史や保育における位置づけ、発達段階に応じた遊び方を知る。言葉遊びを体験し、楽しさを実感するとともに、活用法について考える。
19	言葉遊び	
20	言葉遊び	
21	児童文化財③〔絵本とは何か〕	絵本各部の名称や絵本のジャンルを知るとともに、絵と言葉が協力する絵本の特性を理解する。
22	児童文化財③〔絵本とは何か〕	
23	学びの振り返り	総復習
24	実践 児童文化財を活用した保育	児童文化財を活用した指導案作成
25	実践 児童文化財を活用した保育	
26	実践 児童文化財を活用した保育	
27	実践 児童文化財を活用した保育	児童文化財を活用した保育実践
28	実践 児童文化財を活用した保育	
29	実践 児童文化財を活用した保育	
30	総まとめ②	1年間の振り返り

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	音楽表現Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	音楽表現Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども心理学科	2	60
使用教材	幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術・感性と実践力豊かな保育者へ 保育のためのやさしい子どもの歌一弾き歌い・合奏・連弾・合唱		出版社	萌文書林 ミネルヴァ書房	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場で必要な実践的なピアノ演奏の基礎技術を身に付ける				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの力で読譜ができ、演奏ができる力を身に付ける。</li> <li>・生活のうたの両手奏ができる。</li> </ul>				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70％）および授業態度と参加の積極性（30％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	小田原短大関連科目				
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	宮崎真理子	実務経験	○		
実務内容	ピアノ講師として楽器店にて19年間勤務、ピアノ教室経営16年間の経験を基に、保育現場で必要となるピアノ演奏の基礎技術を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ピアノを弾くための基礎知識	授業の流れ、到達目標、評価について 楽譜の基本 ピアノを弾く姿勢 指番号とその意味
2	ハ長調	ハ長調の曲練習
3	ハ長調	ハ長調の曲練習
4	ハ長調	ハ長調の曲練習
5	成果発表①	ハ長調の曲演奏
6	ハ長調とその他の長調	ハ長調とその他の長調の練習
7	ハ長調とその他の長調	ハ長調とその他の長調の練習
8	ハ長調とその他の長調	ハ長調とその他の長調の練習
9	ハ長調とその他の長調	ハ長調とその他の長調の練習

10	成果発表②	ハ長調とその他の長調の曲発表
11	色々な長調	色々な長調の曲練習
12	色々な長調	色々な長調の曲練習
13	色々な長調	色々な長調の曲練習
14	色々な長調	色々な長調の曲練習
15	成果発表③	ヘ長調、ト長調の曲発表 前期の振り返り
16	生活のうた こどものうた	「おはよう」導入 各自のレベルに応じて選曲し練習
17	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
18	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
19	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
20	成果発表④	「おはよう」演奏発表
21	生活のうた こどものうた	「おかえりのうた」導入 各自のレベルに応じて選曲し練習
22	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
23	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
24	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
25	成果発表⑤	「おかえりのうた」演奏発表
26	生活のうた こどものうた	「おべんとう」導入 各自のレベルに応じて選曲し練習
27	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
28	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
29	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
30	成果発表⑥	「おべんとう」演奏発表 一年の振り返り

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	音楽表現Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	音楽表現Ⅱ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	こども心理学科	1	15
使用教材	幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 ー感性と実践力豊かな保育士へー 保育のためのやさしい子どもの歌ー弾き歌い・合奏・連弾・合唱		出版社	萌文書林 教育芸術社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	保育者に必要な音楽の知識を身に付け、演奏や子どもへの音楽表現遊びに役立てる				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の力で読譜ができる</li> <li>・コードネームによる簡易伴奏付けができる</li> <li>・保育現場での楽器活動の基礎指導ができる</li> </ul>				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	小田原短大関連科目				
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	中西 里果	実務経験		○	
実務内容	幼児から成人を対象にピアノを25年間指導している実務経験を基に、保育者に必要な音楽知識・演奏技術、音楽表現を指導する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス
2	わらべうた	わらべうた遊びの実践・わらべうたの特徴と理解
3	幼児の歌唱と歌唱活動	初めてのうたの歌唱活動の支援
4	リトミック	リトミックの教育目的・活動方法・遊び方の留意点
5	拍子を用いたリトミック	拍子を用いたリトミックの実践とその理解
6	オルフの音楽教育	日常の音を聴く遊び・ボディーパーカッション オルフの音楽教育
7	音楽遊びの指導計画	音楽遊びの指導計画の概要と作成方法
8	低年齢児を対象とした楽器遊びの立案	2・3歳児を対象とした音楽遊びの計画書の理解と音楽遊びの実践
9	4・5歳児を対象とした楽器遊びの立案	4・5歳児を対象とした音楽遊びの計画書の理解と音楽遊びの実践

10	振り返りと実践	第12回～19回内容の振り返りと実践
11	振り返りと実践	第12回～19回内容の振り返りと実践
12	振り返りと実践	第12回～19回内容の振り返りと実践
13	振り返りと実践	第12回～19回内容の振り返りと実践
14	振り返りと実践	第12回～19回内容の振り返りと実践
15	まとめ	学習したことの総まとめ

科目の基礎情報①				
授業形態	演習	科目名	造形表現Ⅰ	
必修選択	選択	(学則表記)	造形表現Ⅰ	
開講			単位数	時間数
年次	1年	学科	こども心理学科	2 60
使用教材	知識を広げ保育実践に生かす表現(造形)		出版社	萌文書林
科目の基礎情報②				
授業のねらい	①保育者としての造形表現活動の基礎知識習得を目的とし具体的な造形技法、道具、素材の活用と留意点を知る。 ②園生活の年間行事や、子どもの発達に準じた指導案の作成により実践力を身につける。 ③物事を多角的に洞察することで感動する心を養い、保育者として必要な自身の感性を磨く。			
到達目標	①造形技法、道具、素材を使って、教材の工夫や用具を使いこなせるようになる。 ②造形表現活動の指導計画を立てることができるようになる。 ③保育者として必要な自身の感性を磨き、それを表現できる。			
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。			
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。			
関連資格	小田原短期大学関連科目			
関連科目	音楽表現Ⅰ・身体表現Ⅰ・言語表現・造形表現Ⅱ・造形表現Ⅲ			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。			
担当教員	久保寺 賀子	実務経験	○	
実務内容	幼稚園にて絵画工作の指導教員として2年間勤務した実務経験を基に、保育者として必要な造形表現活動の基礎知識・技術について教授する。			
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります				
各回の展開				
回数	単元	内容		
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標、評価について 幼児期における絵画表現の理解		
2	平面表現Ⅰ	幼児期の平面表現の基礎		
3	平面表現Ⅰ	幼児期の平面表現の基礎		
4	立体表現Ⅰ	幼児期の立体表現の基礎		
5	立体表現Ⅰ	幼児期の立体表現の基礎		
6	幼児の造形活動の基礎	保育現場における用具や道具について		
7	造形の原理Ⅰ	色彩学の基礎		
8	造形の原理Ⅱ	テクスチャー及び美の構成の基礎		
9	協働しての表現	グループによる見立て画の創作		

10	保育での模擬保育（基礎）	保育現場における造形活動方法の理解と、保育教案作成
11	保育での模擬保育（基礎）	保育現場における造形活動方法の理解と、保育教案作成
12	総復習	これまでの確認
13	保育者の役割	造形活動における保育者の役割
14	素材の探求	自然素材と生活素材
15	平面表現制作Ⅱ	幼児期の平面表現の応用
16	平面表現制作Ⅱ	幼児期の平面表現の応用
17	平面表現制作Ⅱ	身近なモノ（生活素材など）を活用した平面制作
18	立体表現制作Ⅱ	幼児期の立体表現の応用
19	立体表現制作Ⅱ	幼児期の立体表現の応用
20	立体表現制作Ⅱ	身近なモノ（生活素材など）を活用した立体制作
21	保育教材	保育教材デザイン「創案」
22	保育教材	保育教材デザイン「制作」
23	色のおそび	色づくり、色水づくり
24	音のおそび	音を描く
25	道具類についてⅠ	紙を扱うための道具「はさみ」について
26	道具類についてⅡ	紙を接着する素材について
27	保育での模擬保育（応用）	造形活動デザイン「準備」
28	保育での模擬保育（応用）	造形活動デザイン「実践」
29	保育での模擬保育（応用）	造形活動デザイン「ふりかえり」
30	総合	一年間の振り返り

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	身体表現Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	身体表現Ⅰ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	こども心理学科	1	30
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	幼児期に必要な運動プログラムを実践し、指導方法を学ぶ。				
到達目標	こどもが幼児期に感じるであろう運動の楽しさや難しさを感じ、こどもに分かりやすい指導ができる。 活動の際に道具の正しい使用方法を述べる事ができる。 運動遊びの指導ができる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	小田原短期大学関連科目				
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	酒井 みゆき	実務経験		○	
実務内容	幼稚園教諭として私立幼稚園で4年間、フィットネス団体でインストラクターとして10年間勤務した実務経験を基に、幼児期の運動に関する指導方法について教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業のねらい、到達目標について、授業内容の説明
2	体ほぐし運動	体ほぐし運動、準備運動の実践
3	レクリエーション（未満児）	未満児を対象とした幼児レクリエーションの実践
4	レクリエーション（以上児）	以上児を対象とした幼児レクリエーションの実践
5	レクリエーション指導準備	対象をグループで分け、指導実践の準備を行う
6	レクリエーション指導実践	対象をグループで分け、指導実践を行う
7	ボール遊び実践	ボールを使用した運動遊びの実践
8	ボール遊び指導準備	ボールを使用した運動遊びの指導準備
9	ボール遊び指導実践	ボールを使用した運動遊びの指導実践

10	ボール遊び指導実践	ボールを使用した運動遊びの指導実践
11	リズム運動遊び実践	音楽やリズムを使った運動遊びを実践
12	リズム運動遊び指導準備	リズム運動遊びの指導準備
13	リズム運動遊び指導実践	リズム運動遊びの指導実践
14	リズム運動遊び指導実践	リズム運動遊びの指導実践
15	前期まとめ	前期授業の振り返り
16	後期オリエンテーション	後期の授業内容、ねらい、到達目標の確認
17	縄遊びの理解	幼児の発育に応じた縄の使用方法・声かけの仕方・指導方法
18	縄遊び（長縄）	長縄を使用した遊びを経験し、指導法を学ぶ
19	縄遊び（短縄）	短縄を使用した遊びを経験し、指導法を学ぶ
20	マット運動	マット運動等の導入方法と安全管理、声かけ、マット遊びと補助方法
21	跳び箱運動	跳び箱運動等の導入方法と安全管理、声かけ、跳び箱遊びと補助方法
22	鉄棒運動	鉄棒運動等の導入方法と安全管理、声かけ、鉄棒遊びと補助方法
23	サーキット遊び（考案）	縄跳び、マット、跳び箱、鉄棒を使ったサーキット遊びの考案
24	サーキット遊び（指導）	縄跳び、マット、跳び箱、鉄棒を使ったサーキット遊びの指導実践
25	サーキット遊び（指導）	縄跳び、マット、跳び箱、鉄棒を使ったサーキット遊びの指導実践
26	運動遊びの指導（考案）	運動遊び指導実践に向けた内容考案
27	運動遊びの指導（準備）	運動遊び指導実践に向けた準備
28	運動遊びの指導（指導）	運動遊び指導実践
29	運動遊びの指導（指導）	運動遊び指導実践
30	総まとめ	振り返りと総まとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	言語表現		
必修選択	選択	(学則表記)	言語表現		
開講					
年次	1年	学科	こども心理学科	単位数	1
時間数	30				
使用教材	保育実践に生きる『言語表現』児童文化財活用のエッセンス		出版社	萌文書林	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	①素話や絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、言葉遊びなど、子どもの言語発達に関わる児童文化財の特徴や正しい扱い方を学ぶ。 ②集団を前にしての実技と相互批評を通して、保育現場で子どもの言語活動を豊かに展開する実践力を身につける。				
到達目標	①子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 ②保育における教材等の活用及び作成と保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70％）および授業態度と参加の積極性（30％）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格	小田原短期大学関連科目				
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	伊藤 知香子	実務経験	○		
実務内容	海外日本人幼稚園を含む幼稚園にて教諭として8年間勤務、保育園にて保育士として5年間勤務、東京都子育て支援員として1年間勤務をした実務経験を基に、保育現場における子どもの言語活動について教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・到達目標・評価などについて、実践の役割分担や相互評価について
2	言語表現とは	言語表現の位置づけについて
3	児童文化財とは	児童文化財について歴史や活用、子どもの発達に応じた活用について①
4	児童文化財とは	児童文化財について歴史や活用、子どもの発達に応じた活用について②
5	絵本読み聞かせ	絵本の特性と表現技術について
6	絵本読み聞かせ	読み聞かせの実践・発表、相互評価①
7	絵本読み聞かせ	読み聞かせの実践・発表、相互評価②
8	絵本読み聞かせ	読み聞かせの実践・発表、相互評価③
9	絵本読み聞かせ	読み聞かせの実践・発表、相互評価④
10	絵本読み聞かせ	読み聞かせの実践・発表、相互評価⑤
11	おはなし	おはなしの特性と表現技術について①

12	おはなし	おはなしの特性と表現技術について②
13	おはなし	おはなしの実践・発表、相互評価
14	紙芝居	紙芝居の特性と表現技術
15	紙芝居	紙芝居の実践・発表、相互評価①
16	紙芝居	紙芝居の実践・発表、相互評価②
17	紙芝居	紙芝居の実践・発表、相互評価③
18	紙芝居	紙芝居の実践・発表、相互評価④
19	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの特性と表現技術について
20	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの作成①
21	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの作成②
22	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの作成③
23	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの作成④
24	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの作成⑤
25	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの実践・発表、相互評価①
26	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの実践・発表、相互評価②
27	シアタースタイルの児童文化財	パネルシアター・ペープサートの実践・発表、相互評価③
28	まとめ	全体を通じた感想文・相互評価①
29	まとめ	全体を通じた感想文・相互評価②
30	まとめ	全体を通じた感想文・相互評価③

# シラバス

## 科目の基礎情報1

授業形態	講義	科目名	乳児保育Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	乳児保育Ⅰ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	こども心理学科	2	30
使用教材	コンパス 乳児保育		出版社	建帛社	

## 科目の基礎情報2

授業のねらい	乳児保育の意義、目的、歴史の変遷、役割などを現状と課題を含めて学ぶ。保育所や乳児院等多様な保育の場を知り、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容を理解し、その運営体制や職員間の連携、家庭、地域との連携等について学ぶ。				
到達目標	1、乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割について理解する。 2、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは3歳未満児を念頭においた保育を示す。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	浦 裕美	実務経験	○		
実務内容	保育園で保育士として15年勤務、保育園で園長として6年勤務した経験を基に、乳児保育の意義・基礎的知識について教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	乳児保育とは	乳児保育を学ぶ目的・乳児保育の課題
2	乳児保育とは	保育所保育指針からみる乳児保育
3	乳児保育の基本	乳児保育の理念の歴史の変遷
4	乳児保育の基本	現代の乳児保育の社会的役割
5	乳児保育の制度と課題 乳児保育における連携	多様な子育て支援政策と乳児が過ごす多様な場 子育て支援のシステムの背景とそのシステム
6		
7		
8	第1回目復習	これまでの復習

9	1歳未満児の発達過程からみる保育内容1	0～6か月未満児への望ましい支援と援助方法
10	1歳未満児の発達過程からみる保育内容2	6か月以上1歳児未満児への望ましい支援と援助方法
11	1歳以上3歳未満児の発達過程からみる保育内容1	1歳児以上2歳児未満児への望ましい支援と援助方法
12	1歳以上3歳未満児の発達過程からみる保育内容2	2歳児以上3歳児未満児への望ましい支援と援助方法
13	第2回復習	これまでの復習
14	基本的な生活習慣の獲得1	乳児保育における基本的な生活習慣の自立に向けた支援と援助方法 (睡眠)
15	基本的な生活習慣の獲得2	乳児保育における基本的な生活習慣の自立に向けた支援と援助方法 (排泄)
16	基本的な生活習慣の獲得3	乳児保育における基本的な生活習慣の自立に向けた支援と援助方法 (着脱・清潔)
17	基本的な生活習慣の獲得4	乳児保育における基本的な生活習慣の自立に向けた支援と援助方法 (食事)
18	食事の計画、提供及び評価・改善1	冷凍・冷蔵母乳と食物アレルギー
19	食事の計画、提供及び評価・改善2	保育室での配慮
20	第3回復習	これまでの復習
21	乳児保育の計画と記録1	指導計画の理解
22	乳児保育の計画と記録2	指導計画の作成について
23	乳児保育の計画と記録3	個別配慮と環境・職員間の協働
24	乳児保育における連携	子育て支援の連携法
25	子育てをめぐる家族の権利と責任1	児童福祉法・教育基本法からの検討・演習
26	子育てをめぐる家族の権利と責任2	児童の権利に関する条約からの検討・演習
27	第4回目復習	これまでの復習
28	演習	乳児にも使える玩具作り
29	発表	乳児にも使える玩具作り
30	総まとめ	授業のまとめ

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	こどものうたⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	こどものうたⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども心理学科	1	30
使用教材	こどものうた200 / 続こどものうた200 / 保育で役立つ! 0～5歳児の手あそび・うたあそび		出版社	チャイルド本社 ナツメ社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	保育現場に必要な基礎的な歌唱技術、ソルフェージュ力を実践的に学ぶ。				
到達目標	保育現場でよく歌われている季節の歌、園生活の歌をそれぞれ数曲はいつでも歌うことができる。 おおむねイ音～二点ホ音の音符を音名の書き込みなしに読むこと・正しい音で歌うことができる。 基礎的なリズムパターンにおいて、正しいリズムで歌うことができる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	翠 千賀	実務経験	○		
実務内容	声楽指導を22年行っている実務経験を元に、保育現場に必要な基礎的な歌唱技術、ソルフェージュ力を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標、評価、子どもの歌について
2	園生活の歌・うたあそび	園生活の歌・うたあそびの歌唱①
3	春の歌	春の歌の歌唱と拍
4	春の歌	春の歌の歌唱と2拍子
5	春の歌	春の歌の歌唱と3拍子
6	春の歌	春の歌の歌唱と4拍子
7	春の歌	春の歌の歌唱と2分割(バイナリー・ビート)・3分割ビート(ターナリー・ビート)
8	成果発表①	歌唱発表
9	線生活の歌・うたあそび	園生活の歌・うたあそびの歌唱②

10	夏の歌	夏の歌の歌唱とリズムパターン
11	夏の歌	夏の歌の歌唱とリズムパターン
12	夏の歌	夏の歌の歌唱とフレーズ
13	夏の歌	夏の歌の歌唱とフレーズ
14	夏の歌	夏の歌の歌唱と強弱
15	成果発表②	歌唱発表
16	線生活の歌・うたあそび	園生活の歌・うたあそびの歌唱③
17	秋の歌	秋の歌の歌唱
18	秋の歌	秋の歌の歌唱
19	秋の歌	秋の歌の歌唱
20	秋の歌	秋の歌の歌唱
21	秋の歌	秋の歌の歌唱
22	秋の歌	秋の歌の歌唱
23	成果発表③	歌唱発表
24	冬の歌	園生活の歌・うたあそびの歌唱④
25	冬の歌	冬の歌の歌唱
26	冬の歌	冬の歌の歌唱
27	冬の歌	冬の歌の歌唱
28	冬の歌	冬の歌の歌唱
29	冬の歌	冬の歌の歌唱
30	成果発表④	歌唱発表と一年の振り返り

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	社会心理学		
必修選択	選択	(学則表記)	社会心理学		
		開講	単位数	時間数	
年次	1年	学科	こども心理学科	2	30
使用教材	体験で学ぶ 社会心理学		出版社	ナカニシヤ出版	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	自己や他者、集団、コミュニケーションに関する社会心理学の知見を活用しながら、各々の体験を省察する力を醸成し、対話を通して深い学びを獲得していく。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会の中の他者と自己の存在や関係性に気づき、相互の心理的作用について理解する。</li> <li>2. 自分が感じた事や体験した事をそのままにせず、何を学び、どこを改善する必要があるかを省察する。</li> <li>3. 対話する時のマナーや能動的コミュニケーションの方法について、グループワークを通して学ぶ。</li> </ol>				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	井芹まい	実務経験	○		
実務内容	スクールカウンセラーとして私立中学・高等学校にて5年勤務した経験を基に、社会心理学の知見を利用しながら、各自の体験を振り返り良しあしを考えながら、深い学びを得られるように教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス 社会心理学を学ぶにあたって	授業の進め方/社会心理学を学ぶ意義について
2	自己	自己評価/自己呈示/自己制御について
3	原因帰属	帰属の過程/自己奉仕的バイアス/認知スタイル/スケープゴートについて
4	判断と意思決定	フレーミング効果/状況や感情が判断や意思決定に与える影響について
5	対人認知	印象形成/ステレオタイプ/対人認知の歪みについて
6	人間関係	対人魅力/親密な関係の発展と崩壊について
7	これまでのまとめ①	保育現場における具体的な対応場面と関連する心理学的知識の整理・解説
8	健康と幸福	ストレスとコーピング/ソーシャルサポートと社会的排斥/幸福/ソシオメーター理論について
9	対人的影響	他者からの影響/フォールス・コンセンサス効果と集団での意思決定について

10	集団	集団アイデンティティ/傍観者について
11	対人コミュニケーション	話す・聴く/言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて
12	社会的公正/反社会的行為	衡平理論/社会的公正について
13	社会的ネットワークと メディアコミュニケーション	社会的ネットワーク/メディアコミュニケーションについて
14	演習・テスト	試験
15	これまでのまとめ②	保育現場における具体的な対応場面と関連する心理学的知識の整理・解説

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	実習指導Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	実習指導Ⅰ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	こども心理学科	2	60
使用教材	0～5歳児の手あそび		出版社	ナツメ社	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	実習生として好感の持たれる対応や立ち居振る舞いを実践できる。 保育者になるために必要な知識と実習に向けての技術を身に付ける。				
到達目標	実習生に必要な身だしなみやマナー、言葉遣いができる。 日誌と指導案を書くことができる。 子ども目線で手遊びや発表をすることができる。				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	穴戸 千雅	実務経験		○	
実務内容	認可保育園にて4年間、認可外・認証保育園にて10年間(うち認証施設長7年)、病児保育室にて主任保育士として1年間、川崎市の民間保育施設指導員として4年間した実務経験を基に、実習の事前事後指導を行う。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	【実習の基本】 実習の種類と目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習指導Ⅰの授業目的とゴール、3年間の実習スケジュールを理解する。</li> <li>・実習の目標と心構え、実習の種類を理解する。</li> <li>・各学年の実習生の目標(目指す姿)を理解する。</li> <li>・保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を知る。</li> <li>・なぜ実習をするのか、実習の目的と得られる経験について学びを深める。</li> </ul>
2	【実習の基本】 幼稚園・保育園・認定こども園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園と保育園、認定こども園の違いを理解する。</li> <li>・幼稚園と保育園の1日の流れや違いを理解する。認定こども園について学ぶ。(フェルトネーム作成の予告)</li> </ul>
3	【実習の基本】 幼稚園・保育園・認定こども園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭と保育士の仕事を理解する。</li> <li>・保育園の1日の映像を見て、保育の仕事イメージし、保育園の1日の流れを知る。</li> </ul>
4	【実習の準備】 フェルトネーム作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習で使うフェルトネームの説明を受け、図案の作成について学ぶ。</li> <li>・子どもに興味を持ってもらえる図案と色使いを考え、図案を作成する。</li> <li>・安全ピンやエプロンに縫い付けるなど園によりネームの扱いに違いがあることを学ぶ。</li> </ul>
5	【実習の準備】 フェルトネーム作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図案のアドバイスをもとに、大きさや見やすい色、文字フォントを理解する。</li> <li>・型紙作成方法とフェルトや刺しゅう糸など必要な道具と縫い方を学ぶ。</li> </ul>
6	【実習の準備】 フェルトネーム作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが触れても外れないように丁寧に作る。</li> </ul>
7	【保育の実践】 絵本の読み聞かせ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の選び方を理解し、季節を意識しながら次年度の実習で読みたい絵本を選ぶ。</li> <li>・絵本の読み聞かせの仕方、部分実習と指導案の目的について理解する。</li> </ul>

8	【保育の実践】 絵本の指導案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の読み聞かせの指導案の書き方を学ぶ。</li> <li>・自分で選んだ絵本について指導案を作成する。</li> <li>・2年次の実習で使用する指導案の清書を完成させる。</li> <li>・清書した指導案の扱い方を学ぶ。</li> </ul>
9	【保育の実践】 絵本の指導案	
10	【保育の実践】 絵本の指導案	
11	【保育の実践】 指導案の組み立ての基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の指導案を基本に、短い活動の指導案のポイントを学ぶ。</li> <li>・絵本の指導案との違いを理解する。</li> </ul>
12	【実習の準備】 実習の心構え/スタイル オリエンテーション/電話かけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生として心構えと実習生の動き、子どもとのかかわり方を学ぶ。</li> <li>・実習スタイルを理解する。(地域支援実践の導入)</li> <li>・園での実習オリエンテーションの内容と電話かけのマナーを学ぶ。</li> </ul>
13	【保育の実践】 日誌の種類と書き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日誌の必要性和種類、内容を理解し、書き方を学ぶ。</li> <li>・登園の様子を想像しながら、日誌を書く。</li> </ul>
14	【保育の実践】 日誌の書き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日誌の書き方を理解する。</li> </ul>
15	【保育の実践】 日誌の書き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日誌の書き方を理解する。</li> </ul>
16	【振り返りとまとめ】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りとまとめを行う。</li> <li>・手遊びの発表を行う。</li> </ul>
17	【保育の実践】 日誌の書き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日誌の書き方を振り返り、感想と考察の書き方を学ぶ。</li> <li>・子どもたちの主体的な活動を導く関わりについて学ぶ。</li> </ul>
18	【保育の実践】 日誌の書き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エピソード記録の書き方を学ぶ。</li> </ul>
19	【保育の実践】 日誌の書き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エピソード記録の書き方を学ぶ。</li> </ul>
20	【次年度の実習に向けて】 実習先の選び方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2～3年次の実習について学び、実習先の決め方を理解する。</li> <li>・実習で必要な用語を再確認する。</li> <li>・実習生紹介書の目的と書き方を理解する。</li> </ul>
21	【実習の基本】 実習生のマナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な身だしなみや立ち居振る舞いを理解する。</li> <li>・実習生に必要な在り方を学ぶ。</li> </ul>
22	【実習の基本】 実習生のマナー	
23	【保育の基礎】 幼児の発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の発達を理解する</li> </ul>
24	【観察実習に向けて】 実習準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習日誌の事前記入を行う。</li> <li>・実習に必要な準備を行う。</li> </ul>
25	【保育の実践】 指導案の組み立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児向けの指導案の題材を考える。</li> <li>・短い活動の指導案の遊びの組み立てを学ぶ。</li> <li>・製作やゲームの指導案の書き方を理解し作成する。</li> </ul>
26	【保育の実践】 指導案の作成	
27	【保育の実践】 指導案の作成	
28	【観察実習に向けて】 実習の心構えと仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生の心構えを学ぶ。</li> <li>・1日の実習生の動き、子どもとの関わり方を理解する。</li> <li>・お礼状と報告書の書き方を理解する。</li> </ul>
29	【観察実習に向けて】 実習の心構えと仕上げ	
30	【次年度の実習に向けて】 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進級後、2年次の実習までのスケジュールを理解する。</li> <li>・確認と実習シミュレーション</li> </ul>

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保育現場講義		
必修選択	選択	(学則表記)	保育現場講義		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	こども心理学科	1	15
使用教材			出版社		

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	インターンシップの目的を理解し、インターン生として相応しい学びの観点や立ち振る舞いを身につける。				
到達目標	インターンシップの目的を理解している。 インターンシップにおける学びの観点を理解し、インターンシップに期待を持てる。 インターン生として相応しい立ち振る舞いを実践することができる。				
評価基準	授業内で実施する発表、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上である者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考					
担当教員	野崎 拓生	実務経験	○		
実務内容	保育士として三幸学園保育園にて3年6か月勤務した経験を基に、インターンシップの学びの観点や理解、立ち居振る舞いや実践を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	授業ガイダンス	・オリエンテーション（インターンシップファイル配布） ・授業の目的と到達点への理解
2	インターンシップについて①	・インターンシップの仕組みの理解 ・インターンシップの3年間を通じた流れの確認
3	インターンシップについて②	・インターン生としてふさわしい基本的マナーとコミュニケーションの理解と実践
4	インターンシップについて③	・インターンシップにおける学びの観点を理解 ・インターンシップに向けた目標設定と発表
5	インターンシップについてまとめ	・インターンシップについて振り返り、理解度確認
6	インターンシップの心構えと仕上げ	・インターンシップの目的、インターン生として相応しい学びの観点や立ち振る舞いの再確認
7	インターンシップマップ作成①	・インターンシップマップの説明 ・インターンシップマップ作成
8	インターンシップマップ作成②	・インターンシップマップ作成
9	インターンシップマップ発表	・インターンシップマップの発表

10	保育現場見学について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場見学の観点と発表方法への理解</li> <li>・現場見学の目標設定</li> </ul>
11	保育現場見学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育現場にて各自目標に沿った見学を実施</li> </ul> ※代替え日実施
12		
13	現場見学レポート作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場見学レポートの作成</li> </ul>
14	現場見学レポート発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場見学レポートの作成</li> </ul>
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場見学レポートの発表</li> <li>・学習の振り返りと後期インターンシップに向けて</li> </ul>

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	保育現場演習Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	保育現場演習Ⅰ		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	こども心理学科	1	30
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について演習を通して学ぶ				
到達目標	①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤心理学を用いた実践を通じて保育士における保護者、こどもへの支援について総合的に理解する				
評価基準	提出物・発表を総合的に評価する。				
認定条件	実習規定に定める必要時間数以上の出席をしている者。				
関連資格					
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	野崎 拓生	実務経験	○		
実務内容	保育士として三幸学園保育園にて3年6か月勤務した経験を基に、子どもへの理解や保護者への支援について、実践を通して総合的に教授する。				

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	保育心理学実践Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	保育心理学実践Ⅰ		
		開講	単位数	時間数	
年次	1年	学科	こども心理学科	2	80
使用教材	なし		出版社	なし	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶために、保育所の生活に参加する。				
到達目標	①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤心理学を用いた実践を通じて保育士における保護者、子どもへの支援について総合的に理解する				
評価基準	提出物・巡回指導を総合的に評価する。				
認定条件	実習規定に定める必要時間数以上の出席をしている者。				
関連資格					
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	野崎 拓生	実務経験	○		
実務内容	保育士として三幸学園保育園にて3年6か月勤務した経験を基元に、保育所の生活に参加し、保育や施設の機能と保育の職務について学ぶことを教授する。				

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	心理学概論		
必修選択	選択	(学則表記)	心理学概論		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	こども心理学科	2	30
使用教材	エッセンシャルズ 心理学		出版社	福村出版	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	心の働きや仕組みについての理解を深めることや、将来子どもと日常的に関わる際に必要となる心理学の社会的役割を学ぶとことで、保育現場の様々な具体的な対応場面にその専門性を生かしていくことを狙いとする。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>心の働きとはなにかを理解する。</li> <li>自己の理解を深めると同時に、心理学の社会的役割とは何かを探究する。</li> <li>子どもや保護者に対する具体的な対応を想定した際の問題解決スキルを習得する。</li> </ol>				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	社会心理学 発達心理学				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	井芹まい	実務経験		○	
実務内容	スクールカウンセラーとして私立中学・高等学校にて5年勤務した経験を基に、心の働きや仕組み、社会的役割を教え、現場での具体的な対応に生かせるような専門性を教授する。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス 心理学とはどのような学問か	授業の進め方について/心理学を学ぶ意義について
2	見るこころー知覚	知覚とは何か/感覚との違い/錯覚・空間知覚・運動知覚について
3	学ぶこころー学習	学習とは何か/条件づけ・強化/動機づけについて
4	個性をとらえるーパーソナリティ	パーソナリティ (性格) とは何か/代表的な性格検査について
5	こころの発達ー児童期まで	発達とは何か/愛着の発達/認知の発達/社会性の発達について
6	こころの発達ー成人期まで	アイデンティティ/友人関係/恋愛について
7	これまでのまとめ①	保育現場における具体的な対応場面と関連する心理学的知識の整理・解説
8	社会の中のわたし ー自己理解・他者理解	自分についての理解/自尊心・自己効力感について/対人認知/ステレオタイプ・スキーマについて
9	「好き」「嫌い」とは何か ー態度と態度変化	態度とは何か/バランス理論・認知的不協和理論/人を好きになるメカニズムについて

10	社会の動き —集合現象とマスメディア	うわさとは何か/流行とは/マスメディア/インターネットやSNSについて
11	身近な他者 —家族心理学	家族とはなにか/現代家族の特徴と課題/家族療法について
12	買う・買わない —消費者心理学	消費者行動とは/ロイヤリティ/損得の価値評価について
13	こころの健康 —健康心理学	健康の考え方/ストレスとは何か
14	演習・テスト	試験
15	これまでのまとめ②	保育現場における具体的な対応場面と関連する心理学的知識の整理・解説

# シラバス

## 科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	認知心理学		
必修選択	選択	(学則表記)	認知心理学		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	こども心理学科	2	30
使用教材	よくわかる認知発達とその支援		出版社	ミネルヴァ書房	

## 科目の基礎情報②

授業のねらい	認知発達とその支援を学び現場で活用できるよう考えを深める				
到達目標	1, 認知発達の基礎を知る 2, 発達段階に合わせた認知発達を理解する 3, 発達支援の諸問題を考察する				
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。				
関連資格					
関連科目	就職指導Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

## 各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の説明、認知値は何かを考える
2	認知論	ピアジェ、ヴィゴツキー、ハヴィガースト、エリクソン
3	知覚、知能、認知	それぞれのメカニズムについて学ぶ
4	学習、能力、記憶	それぞれのメカニズムについて学ぶ
5	情動、社会、研究	それぞれのメカニズムについて学ぶ
6	テストやレポート、まとめ	まとめとテストやレポート
7	出生前期、出産	それぞれの特徴を知り理解を深める
8	新生児期、乳児期	それぞれの特徴を知り理解を深める
9	幼児期	それぞれの特徴を知り理解を深める

10	児童期	それぞれの特徴を知り理解を深める
11	青年期、成人期、老年期	それぞれの特徴を知り理解を深める
12	テストやレポート、まとめ	まとめとテストやレポート
13	障害と診断	諸問題への理解と考察を行う
14	～介護	諸問題への理解と考察を行う
15	諸問題まとめ	諸問題への理解と考察を行う